

# 新指定の文化財めぐり (平成30～令和元年)



城山薬師堂四面石仏



妙壽寺本堂



早田国東塔



中山仙境（夷谷）

## (1) 本日の行程

- 08:45 豊後高田市役所高田庁舎正面玄関前 集合、受付
- 09:00 バス(真玉・スクールバス)で出発、妙壽寺へ。
- 09:05 妙壽寺着。担当からの説明、見学。

- ・妙壽寺(国登録：H30.3登録)：江戸中期～明治時代／本堂・経蔵・鐘楼・中門・山門
- ・妙壽寺本堂設計図面及び附属資料(市指定：R1.9指定)／図面65枚、附属資料2冊

- 09:45 妙壽寺発
- 10:15 早田国東塔着。担当からの説明、見学。

- ・早田国東塔(県指定：H31.3指定)：南北朝時代

- 10:30 早田国東塔発
- 10:40 中山仙境(夷谷)着。担当からの説明、見学。

- ・中山仙境(夷谷)(国名勝：H30.10指定)／一路一景公園、六所神社、兄弟割石等

- 11:25 中山仙境(夷谷)発
- 12:05 昼食：休憩 (@藏人 農家レストラン)
- 13:00 出発

- 13:05 真木大堂駐車場着。担当からの説明、見学。

- ・城山薬師堂四面石仏(県指定：H31.3指定)：室町時代
- ・城山国東塔(県指定：S54.5指定)：南北朝時代／《参考》

- 13:50 真木大堂駐車場発
- 14:00 内野観音堂着。担当からの説明、見学

- ・内野観音堂木彫仏群(市指定：R1.9指定)：平安時代  
如来坐像、菩薩像1、吉祥天像、菩薩像2、如来立像
- ・木造聖観音菩薩立像(県指定：S44.3指定)：平安時代／《参考》

- 14:35 内野観音堂発
- 14:50 豊後高田市役所着、解散



木造吉祥天立像  
(内野観音堂木彫仏群)

令和 元年10月19日(土)  
豊後高田市教育委員会

表紙：新指定等の文化財

## 文化財の宝庫 ぶんごたかだ

### ○豊後高田市の文化財

- ・現在、豊後高田市には17件の国指定文化財（1件の選択、23件の登録）59件の県指定文化財（2件の選択）、140件の市指定文化財があります。
- ・国宝の富貴寺大堂を筆頭に、仏教文化に関連する有形文化財が多数残されているのが最大の特徴です。
- ・最近では、重要文化的景観「田染荘小崎の農村景観」をはじめとする景観に関する文化財が再評価されてきています。

### ○最近でも多くの文化財が

- ・近年も、多くの文化財が新たに指定等を受けています。

#### 【平成28年度】

国選定文化的景観…田染荘小崎の農村景観 [追加選定]

県指定有形…若宮八幡神社本殿 附棟札一枚ほか 木造仁王像(阿形)

#### 【平成29年度】

国指定名勝…天念寺耶馬及び無動寺耶馬

国登録有形…**妙壽寺本堂・経蔵・鐘楼・中門・山門**

県指定有形…島原藩領田染組村絵図 石造地藏菩薩坐像

市指定有形…木造菩薩形立像〔長安寺〕など

市有形民俗…猿田彦大神画像庚申塔〔夷〕

#### 【平成30年度】

国指定名勝…**中山仙境（夷谷）**

県指定有形…**早田国東塔 城山薬師堂四面石仏**

#### 【令和元年度】

市指定有形…**妙壽寺本堂設計図面及び附属資料**

**内野観音堂木彫仏群**

## 壮大優美な本堂と伽藍 妙壽寺本堂 他

### ○妙壽寺本堂・経蔵・鐘楼・中門・山門【国登録有形／平成30年3月27日登録】

妙壽寺は享禄4年(1531)に金谷休喜師が開基し、慶長9年(1604)に「妙壽寺」の寺号を許された浄土真宗本願寺派の寺院です。境内には本堂を中心に、南側筋に経蔵、鐘楼を配し、本堂正面から北東側の市道に向かって中門、山門を配しています。



妙壽寺本堂 正面外観



妙壽寺本堂 内部(格天井・虹梁など)

本堂は、明治35年(1902)頃の建築で、木造平屋建・入母屋造・本瓦葺。帝室技芸員の佐々木岩次郎が設計したことが記録に残されています(後述)。平面構成は真宗寺院本堂の典型的な形式を示しており、前方に外陣、その奥に矢来の間、さらにその奥に内陣と余間を配しています。内部も各所に彫刻が彫られ、市松模様の格天井など意匠に優れています。桁行(幅)と梁間(奥行)がそれぞれ20mを超える大規模な建築はまさに壮大優美であり、すぐれた建築技法で造立された上質な本堂建築といえます。

経蔵、鐘楼、中門、山門も近世寺院建築としての見所も多いです。



妙壽寺鐘楼 宝暦11年(1761)の造立

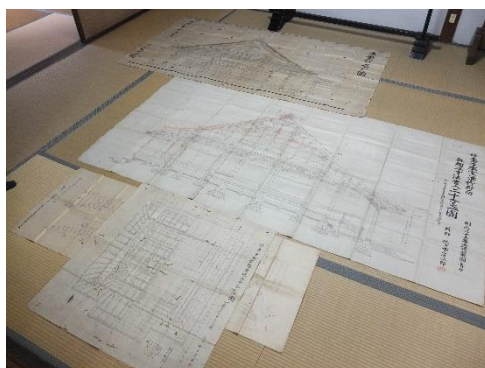
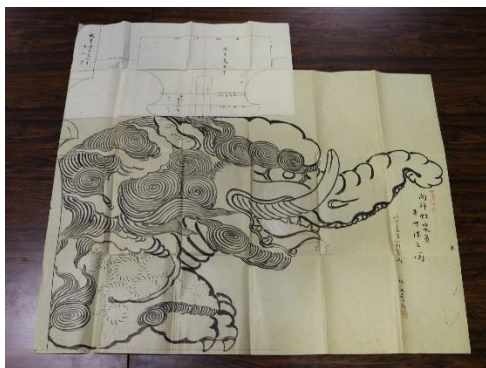
## 妙壽寺本堂設計図面及び附属資料

### ○妙壽寺本堂設計図面及び附属資料【市有形／令和元年9月25日指定】

明治35年頃に建てられた妙壽寺本堂には、帝室技芸員・佐々木岩次郎が設計、作図した図面65枚と関連資料2冊(『妙壽寺本堂改築設計明細書』『妙壽寺再築に関する申込書』)がまとまって残されています。

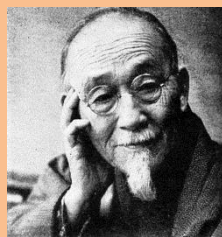
現存する図面には、各部材の詳細な寸法が明記されており、精度が高く、佐々木の建物に対する真摯で丁寧な仕事ぶりが伺えます。附属の設計明細書には、“本堂改築費用予算額一目表”が記され、その費用総額は約3万4700円として、各工事の内訳明細が詳細に記録されています。

当時の手書図面及び関連資料が一括して残されていることは大変貴重であり、日本建築史における学術的価値が極めて高い資料です。



### ○佐々木岩次郎と伊東忠太

佐々木岩次郎は1853年(嘉永6)京都生。明治～昭和初期にかけて活躍した建築家。日本近代を代表する建築家・伊東忠太とともに設計や監督(例：平安神宮・宮崎神宮)、古社寺の調査にも携わっていて、深い関わりを持っていました。伊東忠太は《建築》という言葉を考案し、日本・東洋の古建築を「建築史」という学問に体系づけた最初の人として知られています。



伊東忠太

## 二筋の谷の景色をむすぶ 中山仙境(夷谷)

### ○中山仙境(夷谷)【国名勝／平成30年10月15日指定】

平安時代に夷谷は“大魔所”と呼ばれ、大岩や樹木が人の侵入を妨げる、厳しい地形の場所と知られてきました。長小野に伝わっていた「夷住僧行源解状案(余瀬文書)」には、夷石屋(夷谷全体を境内とする寺院)の僧・行源が、仏事の傍ら夷谷を徐々に開拓した旨が記されています。

夷谷の開拓が進んだ鎌倉末～南北朝時代になると、中山仙境は“聖なる御山”と捉えられるようになり、東西夷谷の仙境の崖面を利用して磨崖仏などの霊場が拓かれるようになりました。

江戸時代には、国学者・高井八穂が、父・宣風と共に夷を訪れ、文政2(1819)年に和歌と共に夷谷八景を定め、夷谷の観賞する際の視点を決めました。



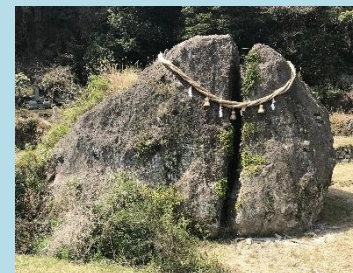
雪の夷谷

### ○ここが変わった！名勝的評価

近年行われた調査で「夷谷」の名勝的価値に加えられた内容で、特に理解してほしいポイントは、「中山仙境」への眼差しの変化です。

中山仙境は険しい岩峰で、地形的にも二筋の谷を分断していると捉えられてきました。

しかし、中山仙境を“聖なる山”として観た人々によって、崖面に向かって信仰の場がつくられ、兄弟割石の民話のように東西夷谷の事物が結び付くようになりました。中山仙境を源泉とした芸術的視点が、二筋の谷の景色を結んだ、と捉えられるようになったのです。



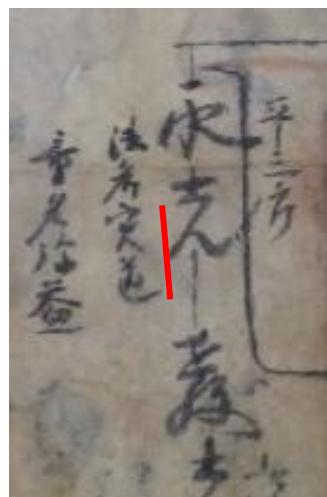
## 異形の殿墓 早田国東塔

○早田国東塔【県有形／平成 31 年 3 月 12 日指定】

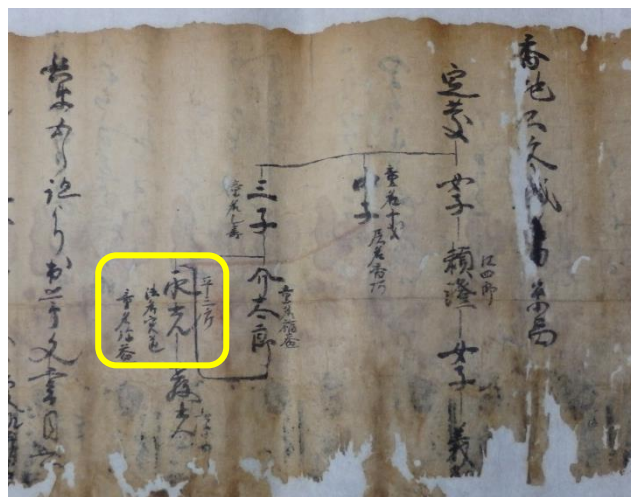
早田国東塔は、香々地字早田小字殿屋敷にある大型の国東塔です（総高 289cm）。

特徴的な蓮華坐、全体として重心の低い造形だが、部材の作りは丁寧。元々は隣接する畑に散在していたが、昭和 54 年の調査で高く評価され、翌年復元されました。

塔身には陰刻で「暦応二(1339)」と刻まれ、同じく墨書で「大願主沙弥實道」と書かれます。この實道は付近に伝来する黒田家文書「香地公文職系図(南北朝時代)」に登場する実道と一致すると考えられ、当時の香々地荘の様子を知る歴史資料としての価値も認められました。



右の一部(“実道”部分)



黒田家文書「香地公文職系図」

## 石に込めた祈りのかたち 城山薬師堂四面石仏

○城山薬師堂四面石仏【県有形／平成 31 年 3 月 12 日指定】

城山薬師堂は、真木村絵図にも描かれる霊場で、後背の城山から伸びる尾根の末端の岩窟の四面に彫られた石仏が著名です。

石仏のまわりを一周してみると、前(南)面には右から①阿弥陀如来②不空罽索観音③薬師如来④不詳⑤不詳、右(東)面には⑥阿弥陀如来、左(西)面には⑦阿弥陀如来、背(北)面には西から⑧阿弥陀如来⑨阿弥陀如来⑩薬師如来と、10 軀の像が彫り込まれていることや、阿弥陀信仰が色濃く表れていることが分かります。

平成 30 年度の検討では、各像の造られた年代にも差異があることが分かり、四面石仏が北面を始点に、数十年かけて南面まで範囲を広げたと推定されました。



一緒に CHECK !

○城山国東塔【県有形／昭和 54 年 5 月 15 日指定】

四面石仏の裏手を見ると、城山国東塔があります。総高 303cm の大型塔で、照屋根の笠が美しく、台座が八角柱で作られているのが特徴です。南北朝～室町時代とされていましたが、現在では室町時代の作と推定されています。

高く縦に伸びる国東塔らしい姿をしており、市内でも特に美しいとされる国東塔の 1 つです。



## くにさきの古仏たちが集う仏堂 内野観音堂

### ○内野観音堂木彫仏群【市有形／令和元年9月25日指定】

「内野の焼仏」として知られる木造聖観音菩薩立像(県指定)をまつる内野観音堂には、この他にも以下5軀の木彫仏がまつられています。

- ・木造如来形坐像 一木造 像高 71.7cm 平安時代前～中期
- ・木造菩薩形立像① 一木造 像高 143.9cm 平安時代前～中期
- ・木造吉祥天立像 一木造 像高 135.3cm 平安時代後期
- ・木造菩薩形立像② 一木造 像高 80.6cm 平安時代前期
- ・木造如来形立像 一木造 像高 91.7cm 平安時代後期

いずれも内割を施さない一木造の仏像で、平安時代に制作された古仏とされています。それぞれの仏像には朽損が目立ちますが、大分県の仏教美術史及び彫刻史を考える上で、重要な資料であると評価されました。

これら5軀の仏像の来歴等については、文献史料などに乏しく、詳細は不明です。西叡山諸堂の仏像または、近隣の寺院に祀られていたものが、寺院の廃絶など何らかの理由で、この地に集められたものと考えられています。



一緒に CHECK !

### ○木造聖観音菩薩立像【県有形／昭和44年3月22日指定】

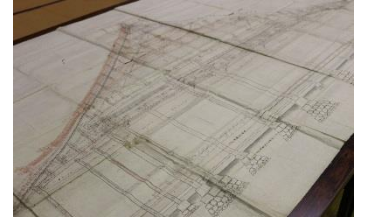
内野観音堂の本尊。元は西叡山高山寺に安置されていたと伝わっています。平安時代前期の造頭で、国東半島に残る平安仏の中でも最も古い時代のものです。流麗な姿から「国東のヴィーナス」とも称されるほか、全面に焼痕がのこることから「(内野の)焼仏」とも呼ばれています。



### 妙壽寺本堂・妙壽寺経蔵・妙壽寺鐘楼・妙壽寺中門・妙壽寺山門【国登録有形】

#### 妙壽寺本堂設計図面及び附属資料【市指定有形文化財】

豊後高田市を代表する近世・近代寺院建築。特に、明治後期に造営された本堂は佐々木岩次郎の設計で、当時の図面なども妙壽寺に現存しています。



#### 中山仙境(夷谷)【国指定名勝】

東西夷谷を分断するように聳える中山仙境は、芸術的な視点で2筋の谷を結ぶ存在でした。谷を囲むように展開する岩峰群は国東半島一の規模。



#### 早田国東塔【県指定有形文化財】

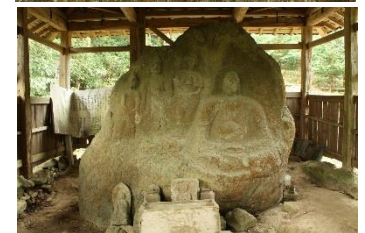
香々地荘の公文・黒田氏の人物と見られる實道が願主となっています。懸裳を思わせる蓮華坐は、少し特異な形状をしています。



#### 城山薬師堂四面石仏【県指定有形文化財】

#### 城山国東塔【県指定有形文化財】

尾根上の岩瘤の四面に、計10軀の石仏を彫り込んだものです。阿弥陀信仰の強さを今に伝えます。



#### 内野観音堂木彫仏群【市指定有形文化財】

#### 木造聖観音立像【県指定有形文化財】

国東半島でも最古級の仏像と知られる内野観音堂の木造聖観音立像。その左右に並ぶ平安仏が新たに指定されました。

